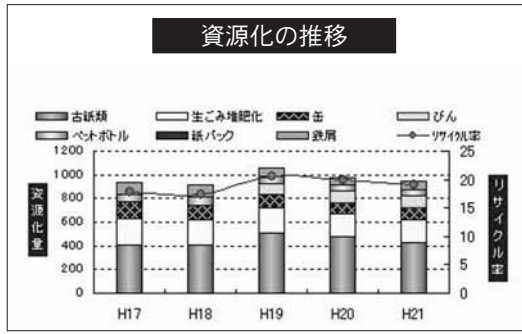


④ごみの分別でリサイクル

町（安平・厚真行政事務組合）では以前より細かな分別でゴミの収集を行っています。が「ごみの減量とリサイクル」を目指した取組みです。

以前から行ってきた古紙類、缶やびん、生ごみの堆肥化などに廃プラスチックが加わることでごみの排出量に対してリサイクル処理の割合が多くなっています。



合併処理浄化槽設置補助
町が進めている公共下水道整備の区域外の方を対象に実施しており、生活排水による河川などへの水質汚濁を防止する対策として実施しています。

クリーン農業への取組み

化学肥料や農薬を減量するために、緑肥や堆肥などを利用する取組みに対して補助制度があります。

また、排出量がとても多い農業用プラスチック（ビニールハウスや飼料用のラップなど）の適正処理対策は、家庭ごみ以上に排出されることから早くから取組んでいます。

③更なる町の取組み

時代の進化は、省エネ家電の中でも画期的に消費電力が低くて長寿命といった物への移行に注目度が高まり、特にLED電球といったものは代表的なものです。

従来品と比べて初期投資は高いですが、長い目で見ればメリットが高く「環境に良い事」として順次導入（交換）を図っていく計画となっています。

また、既に国や一部の団体で実施している個人への太陽光パネル設置費用の補助なども自然エネルギーの活用を推進するための方策として検討しています。

④最後に

消費電力が少ない家電や燃費の良い車だからといって使い過ぎは取組みの効果にはなりません。

「エコ」を履き違えて「エコ」にならないよう「正しくエコに向き合う」ことが重要です。

必ずしもエコ家電やエコカーに買換えることだけが環境への取組みではなく、「節約術」との併用を継続する意識の向上が一番重要で価値のあることです。



環境省では、「こども環境白書」などを作成し次世代の子どもたちに対する環境への知識（意識）向上に努力しています。

親子で取組む多種多様なエコ運動も各種マスメディアを通じて広報されています。

環境対策はいろいろとありますが、地産地消の取組みもその一つで輸送手段からのCO2削減効果として表現されている事例もあるくらい「身近なことから始める」ことができます。

町では具体的な計画整備を含めて今後も事業や取組み行っていく予定です。

家族でチャレンジ 3R

ごみを減らす Reduce リデュース
繰り返し使う Reuse リユース
再生利用 Recycle リサイクル

が日常生活の中でもっと国産木材製品を使えば、資金が山に還元され森林整備につながります。

それが「植える↓育てる↓収穫する↓上手に利用する」という森林の循環を保ちCO2を吸収する元気な森が地球温暖化防止に貢献する考えになります。

ごみではなく資源に

安平・厚真行政事務組合にごみとして集められた物すべてが焼却や埋立といった処理ではなく、リサイクルされている現状もお分かりいただけたと思います。

ただし、ただ分別をすればよいだけでなく、不適物（種類の違うものや危険なもの）を混入しない協力が資源にできるものを増やすことができます。

※注意

テレビ、冷蔵庫、エアコンといった特定家庭用機器廃棄物と言われるものは排出者が費用を負担し適正に処理することが法律で定められています。